

# 福島市

## 認知症施策における各関係機関とのネットワークの強化

### 福島市の概要

H25年度に実施した日常生活圏域ニーズ調査及び要介護認定データによると、福島市において認知症と推定される高齢者は15.0%（推計数11,067人）である。本市では平成25年度に認知症対策検討会を立ち上げ、具体的な対応方策として「福島市認知症施策－オレンジプラン－（平成27～29年度）」を平成27年2月に策定した。

平成27年度は、福島市医師会と連携し、認知症に関する医師会相互の充実した連携体制の構築と認知症に関する正しい情報の提供及び地域住民等の自主的な活動の支援等を重点に取り組んだ。

#### 【基本情報】

平成27年10月1日時点

#### ●人口

285,060人

#### ●65歳以上高齢者人口

76,711人

#### ●高齢化率

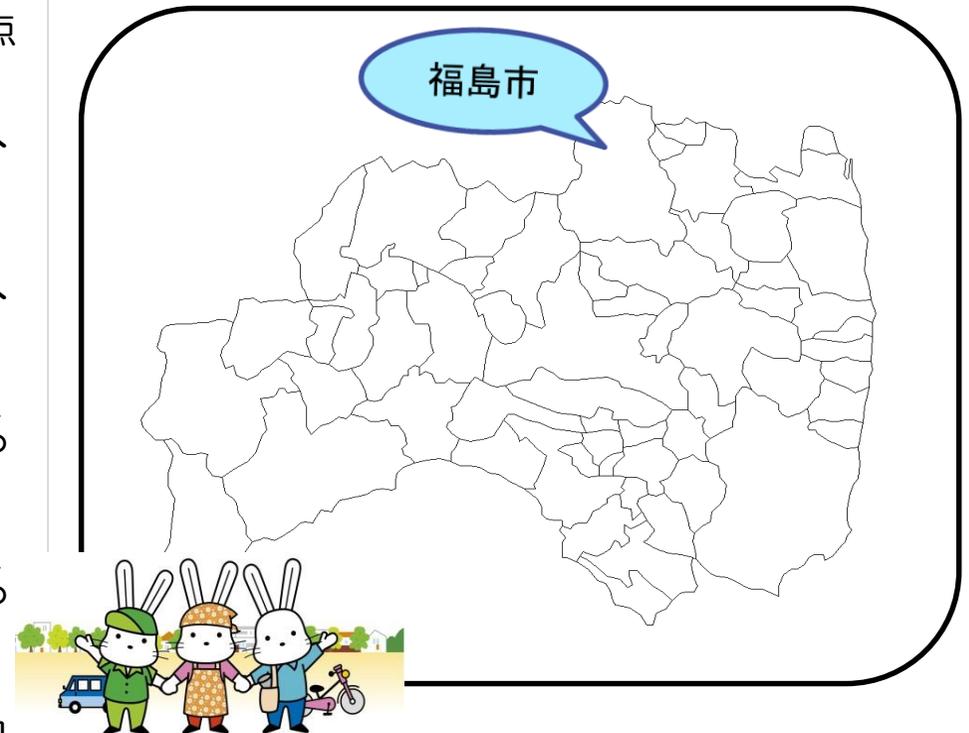
26.9%

#### ●要介護認定率

20.0%

#### ●第1号保険料月額

5,900円



# ①地域における認知症対応施策推進事業

## ●目的

福島市認知症施策－オレンジプラン－に基づき、認知症の人とその家族が住みなれた地域で安心して暮らしていくための支援活動（認知症地域支援事業）を補助し、認知症の人を支える地域づくりを目指す。

## 【目標】

- ・ 認知症の人と家族が地域住民と交流できる「認知症カフェ」の設置
- ・ 地域のネットワークを活用した「認知症徘徊模擬訓練」の開催



## ●事業内容

対象活動 「認知症カフェ」 「認知症徘徊模擬訓練」

対象団体

- ・ 市内に事業所又は活動拠点を有する団体で、地域支援活動の実績がある団体
- ・ 認知症の相談又は支援を行い、積極的に認知症に関する普及啓発活動を行うことができる団体

補助額

「認知症カフェ」…1回につき5,000円 当該年度、1団体につき6回まで

「認知症徘徊模擬訓練」…1回につき30,000円 当該年度、1団体につき1回まで  
(平成27年度については、平成27年10月1日以降実施分から補助とする)

## ●実施結果

市内では「認知症カフェ」は6箇所で開催され、「認知症徘徊模擬訓練」は3地区で開催された。

## ② 「認知症サポーターがいます」普及啓発事業

### ●目的

福島市認知症施策－オレンジプラン－に基づき、認知症の人とその家族が住みなれた地域で安心して暮らしていくために、すべての人が認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくりを目指す。

### 【目標】

- ・住民の認知症への理解を広げる

### ●事業内容

認知症サポーターが身につける「オレンジリング」の周知と合わせて、事業所等掲示用「認知症サポーターがいます」ステッカーを作成し普及啓発を行う。

当市のキャラクターである「ももりん」をモチーフとし、大きさを掲示場所を選択できるようにA4・A6・A3サイズを作成中。

### 対象事業所等

- 「認知症サポーター養成講座」を受講した学校、職域・企業等へ配布
- ・平成27年度 約200事業所等へ配布予定

事業開始は平成27年3月中旬からの予定である

## ③かかりつけ医と認知症専門医の懇談会

### ●目的

福島市認知症施策－オレンジプラン－に基づき、かかりつけ医・認知症サポート医・認知症専門医・認知症疾患医療センターの現状を知り、医師間の連携体制の構築に向けて今後の連携のあり方を検討する。

### 【目標】

とぎれない医療体制づくり

- ・医師間の認知症に関する顔の見える連携体制の構築

### ●実施主体 福島市医師会との連携事業

### ●実施日及び内容

平成28年1月19日（火）午後7時～8時30分 福島市保健福祉センター

①現状報告「認知症専門医から現在の取組みと今後について」

②懇談「日常診療における認知症患者の対応～先生方が診療で困っていること、考えていること～」

### ●実施結果

- ・対象医師96名中、参加希望者33名。当日は大雪の影響もあり、出席者は24名であった（サポート医4名・専門医1名含む）
- ・懇談ではどのグループからも、認知症の診断・治療の難しさ、特に独居や高齢者世帯とのかかわりが困難である等の問題が出された。また、早期発見のためのツール、薬の効果等について知りたいとの要望も出されるなど活発な意見交換ができた。
- ・今回、医師同士の顔の見える関係作りができたことは成果であり、今後もこの懇談会を継続しながら、医師間の連携体制の構築を目指していく。

# 成果と課題

## 取組の成果

- 地域のネットワークを活用した「認知症カフェ」や「認知症徘徊模擬訓練」の開催により、地域住民を中心とした関係機関との連携強化が図られるようになった。
- 地域の身近な相談機関である「かかりつけ医」が認知症治療について困っていること等が多く出され、とぎれない医療体制づくりのためには「かかりつけ医」へのサポートが重要であることが確認できた。

## 今後の展望

- 認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるための支援として
- 認知症の人と家族が地域住民と交流できる「認知症カフェ」や地域のネットワークを活用した「認知症徘徊模擬訓練」が市内に広がっていくよう支援していく。
  - 「かかりつけ医と認知症専門医の懇談会」を継続して開催しとぎれない医療体制づくりを目指していく。

【徘徊模擬訓練】①松川地区  
松川地区ネットワーク会員の他、  
地区住民が多く参加



②信夫地区 訓練後の反省会も参加者全員で意見交換会を実施



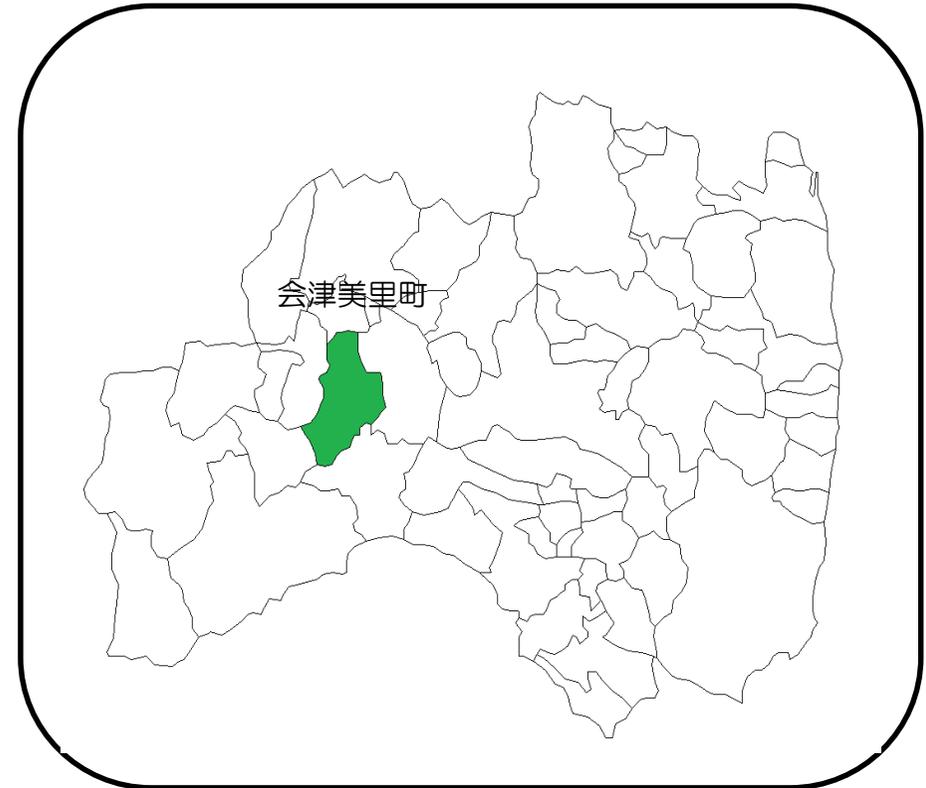
## 会津美里町の概要

会津美里町は、会津高田町、会津本郷町、新鶴村の旧3町村が合併して平成17年10月1日に誕生しました。福島県の西部に位置し、東は会津若松市、西は柳津町、北は会津坂下町、南は会津下郷町・昭和村に接しています。

## 【基本情報】

平成27年10月1日現在

●人口	21,536人
●65歳以上高齢者人口	7,280人
●高齢化率	33.8%
●要介護認定率	17.8%
	(要支援者も含めると21.6%)
●第1号保険料月額	5,600円



# 会津美里町認知症対策サポート会議

## ●背景

サポート会議組織前の認知症対策は病院は病院、包括は包括、町は町というように取りまとめの場がなく、それぞれに行っていた。まずは関係者の話し合いの場をつくらうと平成24年度から関係者を集めて協議を始めた。

## ●事業内容

平成24年8月に「福島県一認知症に優しい町」を目標に「会津美里町認知症対策サポート会議」を設置した。当初メンバーは町、県保健福祉事務所、警察署、地域包括支援センター、高田厚生病院、社会福祉協議会、町内の各居宅介護支援事業所など。順次、民生委員、認知症の方の家族、商工会を加えた。また、準備段階から協力いただいていた後藤大介医師を特別顧問に迎えた。

委員の任期は、介護保険事業計画の時期とあわせて平成29年3月31日までとした。現在、2期目。

## ●取組のポイント

町の認知症対策にかかわるあらゆる事項を検討する。また関係者の情報共有を図る。

# サポート会議の取り組み

- 委員を3つの部会に分けて活動
  - 広報部会・・・認知症見守りサポートマップの作成
  - 研修教育部会・・・講演会や研修会の開催
  - 認知症サポーター部会・・・認知症サポーター養成講座の開催
- 劇団オレンジじげんの活動
  - 町内の関係機関のスタッフで組織する。認知症に関する周知活動を行っている。
- 認知症地域支援推進員の配置
  - 平成26年7月から
- 認知症サポートガイド（ケアパス）の作成
  - 平成27年6月完成
- 認知症見守りサポート訓練の実施
  - 平成27年10月実施



左：認知症サポートガイド  
上：認知症見守りサポート訓練

# 成果と課題

## 取組の成果

- 関係者の横の連携が円滑に進むようになった。
- 医療や福祉の関係者だけでなく、認知症のことを考える体制が広がってきた。

## 今後の展望

- ボランティア活動など一般町民と連携した活動が広がっていけば・・・
- 認知症の方自身の活躍の場が広がっていけば・・・

## 会津美里町の目指すべき姿

町民みんなが  
ひとつのサポ。ポートチーム  
みんなが知っている認知症  
のこと

いつまでも現役！  
わたしの楽しみを続け、  
わたしの家で暮らす

# 東白川郡

## 小規模町村共同による認知症初期集中支援チームの設置

### 東白川郡の概要

棚倉町、矢祭町、埴町、鮫川村の4町村からなる。高齢化率も高く、地域資源も少ない。  
全般的に人材不足が課題。

### 【基本情報】

平成27年10月1日現在

項目 町村名	人口	65歳以上高 齢者人口	高齢化率	要介護 認定率	第1号保険 料月額
棚倉町	14,731人	4,084人	27.7%	17.2%	5,000円
矢祭町	6,163人	2,101人	34.1%	13.9%	4,300円
埴町	9,362人	3,062人	32.6%	19.2%	5,000円
鮫川村	3,782人	1,238人	32.7%	17.1%	4,700円



# 取組の内容①

## ●背景

認知症初期集中支援チーム設置を進めようとする中、専門医や医療専門職の確保が小規模町村単独では難しい課題があった。そのため、郡内で唯一診療科のある埴厚生病院を中核としたチームを郡内共同で設置することとなった。

## ●事業内容

東白川郡4町村共同で、東白川医師会、埴厚生病院の協力を得、認知症集中支援チームを設置する。4町村での運用方法を検討するとともに、認知症に関する支援方法を関係者と協議し、共通した支援体制を確立する。

- H27年度 サポート医研修、チーム員研修、地域支援推進員研修へ参加  
先進地視察研修（あずま通りクリニック）  
準備会（勉強会）及び、設置検討委員会の発足
- H28年度 チーム拠点整備、講演会の開催
- H29年度 運用開始

## 取組の内容②

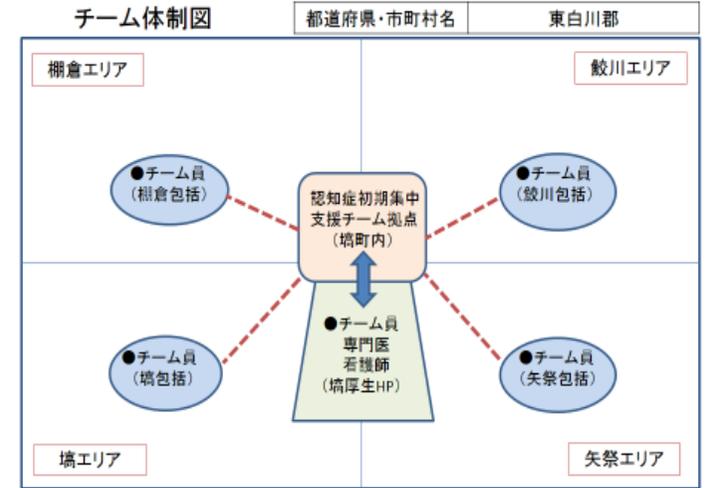
### ●取り組みのポイント

<b>ネットワーク 形成</b>	実施に向けた勉強会を定期的を開催し、郡内4町村、郡医師会、埴厚生病院、包括支援センター、保健福祉事務所の連携体制を構築。  郡内担当者会議の月例化。
<b>効率的な 対応</b>	研修費等の負担すべき費用の支出は1箇所で行う。  郡内統一で実施することで、医療機関等の負担が軽減。  共通した地域課題、施策の検討が可能。
<b>補完的 組織</b>	少ない医療系人材確保のため、郡医師会・医療機関に協力を依頼。  郡全体で情報を共有し、チーム力・対応力の向上を図る。

# 成果と課題

## 取組の成果

- サポート医研修 精神科医師1名  
チーム員研修 看護師2名  
地域支援推進員研修 4名（町村各1名）
- 東白川郡認知症初期集中支援チーム準備会 3回開催
- 東白川郡認知症初期集中支援チーム設置検討委員会の発足



## 今後の展望

- 専門医、チーム員の確保と継続的養成
- チーム拠点の整備、共有ツールの検討
- 郡内共同の認知症施策（ケア向上事業）の展開

